

お客様 各位

平成20年12月3日
岡部株式会社
旭化成建材株式会社

ベースパック柱型立上り筋の頂部フックについて

ベースパック標準柱脚仕様において立上り筋の頂部にフックを設ける必要はありません。

ベースプレートからの圧縮力には図1のように、柱型頂部近くにトップフープがあることが肝要であるため、ベースパックではトップフープの位置を高く保持しやすいよう頂部フックを設けないようにしています。鋼構造接合部設計指針（日本建築学会）の柱脚基礎コンクリートの頁にも「基礎の主筋をベースプレートの外側より外側に配置し、かつ基礎上端まで立上げる。その際、基礎上端近くまで帯筋を配置して無筋部分を減らすように設計する。」とあります。

また、建築基準法施行令第73条には「RC柱及びはり（基礎ばりを除く）の出すみ部分（最上階など）の鉄筋の末端は、かぎ状に折り曲げて、コンクリートから抜け出さないように定着しなければならない。」とありますが、ベースパックの立上り筋は接合部の補強鉄筋であり、RC柱及びはりの出すみ部分の鉄筋とはみなしていません。

ただし、柱型の立上がり高さが50mm（NTの場合は200mm）を超えてRC柱としてみなされる場合には、少なくとも四隅の立上がり筋の頂部にはフックが必要と判断されますので、図2のような納まりにより、トップフープを基礎柱型上端近くに配置するよう努めてください。

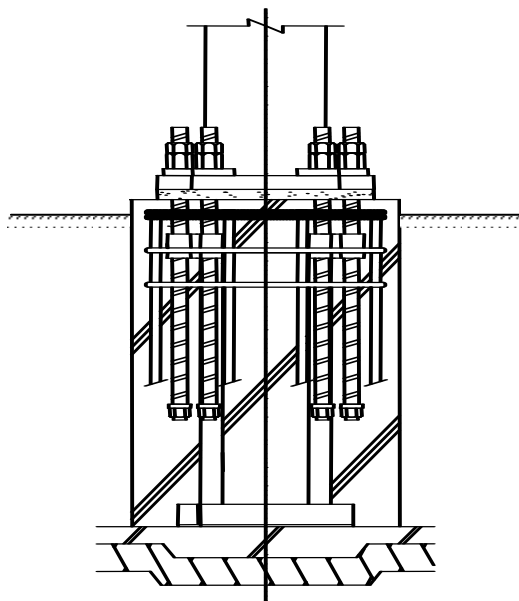


図1

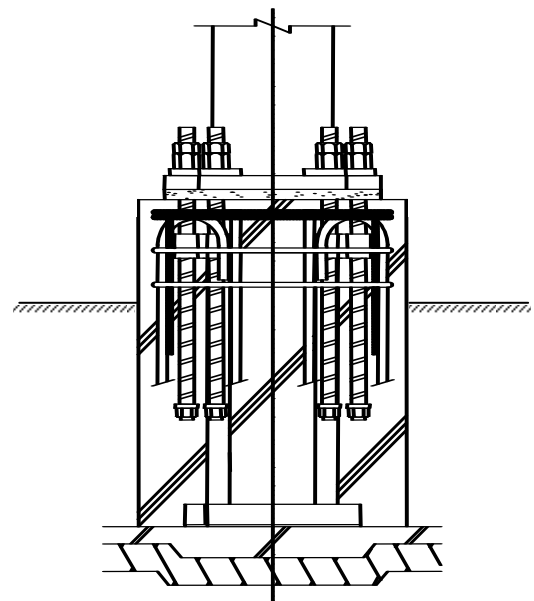


図2

以上